

出展者の声 ～ウィズコロナの取組とこれから、展示会への期待～

玉川食品株式会社 代表取締役 関根 康弘 様

当社は東京 23 区最後に残る乾麺の製造メーカーです。昭和 10 年の創業以来、地域に根差した製麺工場として、うどん、そば、冷や麦など和麺のほか、パスタ、中華麺、焼きそばなど多様な麺づくりを行ってきました。主力の『満作うどん』は平成 25 年に東京都地域特産品として認定されています。当社は都内 6 区 175 校の学校給食指定工場認定の他、宮内庁の食堂用や宮中祭祀である新嘗祭の奉納用うどんも納めています。

コロナの感染拡大期は取引先の飲食店は時短営業あるいは休業を余儀なくされ、最初の緊急事態宣言下では学校給食も中止となりました。さらに、観光地や空港等のお土産として開発した商品も販売できなくなり、当社も非常に大きな打撃を受けました。

ただ、その間も商品開発を怠ることはありませんでした。地元北区の偉人、渋沢栄一翁にちなんで、彼が晩年愛したビタミン・ミネラル・食物繊維が豊富なオートミールに、現代人に必要な栄養素であるタンパク質（プロテイン）を加えた画期的な乾麺製品を開発しました。主食として、幼児から高齢者まで世代を問わず食べやすい麺で必要な栄養素を摂取できることが大きな特徴です。渋沢栄一翁の代名詞である「イノベーション」に基づき開発した本製品は、東京北区観光協会とも連携し、区内外に広く発信され、区の観光産業の活性化にも寄与しています。

アフターコロナは、生活様式が一変していくと考えています。展示会スタイルも従来型の大人数を集客し、とにかくアタックというスタイルではなく、ピンポイントでの商談がキーになると感じています。中小企業マーケット TOKYO2022 はリアルとオンラインのハイブリッド形式。今後の展示会のスタンダードになると期待しております。



関根社長



新商品のオートミール&プロテイン
パスタとうどん

一般社団法人東京諸島観光連盟 事務局長 照沼 好美 様

東京都には大島、利島、新島、式根島、神津島、三宅島、御蔵島、八丈島、青ヶ島、父島、そして母島の合計 11 の有人島があり、それらを総称して「東京諸島」と呼びます。「東京諸島」の認知度はまだ低いと感じており、当協会は東京都や各観光団体と連携して PR 活動を行っています。

コロナ禍で島の観光業は相当厳しい状況に陥り、この 2 年間、当協会としても観光誘致を目的としたリアルのイベントが全くできませんでした。しかしながら、「東京諸島」の魅力の発信は続けたいと思い、今年はホームページのリニューアルに取り組みました。新しいホームページは各島関係者の方々の意見・要望も取り入れ、東京諸島を全く知らない人のゲートウェイの位置づけとなるように制作いたしました。

現在はウィズコロナを見据え、観光客誘致だけでなく、島に来られない方にも食材等の産品や映像を通じて、島の魅力を感じていただけるようなコンテンツを開発していきたいと考えています。

「中小企業マーケット TOKYO2022」は久しぶりのリアル展です。ちょうど感染状況も落ち着いてきていること、また開催のタイミングからも、今回は「伊豆大島 椿まつり」を中心にご紹介したいと考えています。まだ海外旅行が難しいこともあり、今、「東京諸島」に注目が集まっています。展示会を通じて多くの方に東京諸島の魅力が伝わることを期待しています。



照沼事務局長



父島の海



伊豆大島 椿まつり